

はじめに

農業・農村を取り巻く情勢は、雇用労働力を含む農業従事者の減少や高齢化の進行に加え、農業用資材価格の高騰、賃金単価の上昇など、厳しい状況にあります。

県では、農業の「稼ぐ力」を引き出すため、地域農業を支える担い手の確保・育成を図るとともに、販売量を増加するための生産基盤の強化や農畜産物のブランド化、スマート農業の導入、みどりの食料システム戦略の推進、令和6年度末に策定された地域計画の実現などに取り組んでいるところです。

熊毛地域におきましては、「種子島安納いも」及び「種子島レザーリーフファン」が、国の地理的表示（GI）保護制度に登録され、また、ばれいしょやブロッコリー、レザーリーフファン、たんかん、マンゴーにおいて種子屋久農協が「かごしまブランド団体」として認定されています。ほかにも、種子島では、基幹作物であるさとうきび、さつまいもをはじめ、肉用牛や酪農などの畜産、スナップえんどう、たんかんなどの園芸品目、早期水稻や茶など、屋久島では、ぽんかん、たんかんなどの果樹や茶、養豚などの生産振興が図られています。

そのような中、農地の将来の受け手への集約化に向けた話し合い活動の充実や「サツマイモ基腐病」の発生により減少したさつまいもの栽培面積及び生産量の回復、さらに種子島においては、老朽化したさとうきび関連施設の再編などに対応した取組などが喫緊の課題となっています。

このような課題に対応するため、熊毛地域農政企画推進会議では、地域計画の実現に向けて関係機関・団体が結集し、担い手への農地の集積・集約化を推し進め、農畜産業の生産性向上及びPR活動を通じて農業の「稼ぐ力」の向上を図るとともに、農業を支える人材の確保・育成に取り組んでいるところです。今後とも、地域の関係の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

このたび、熊毛地域農政企画推進会議では、「令和6年度熊毛地域農業の動向」を取りまとめましたので、地域農業の振興に活用していただければ幸いです。

なお、生産実績数値の取りまとめに当たっては、各市町等からの報告データを活用させていただきました。あらためて感謝申し上げます。

令和8年3月

熊毛地域農政企画推進会議